



# 「アジア」

**主張**

その損失は計り知れない。ドイツへのロシア、欧州の支持と対照的に日本の責任推測入りアジア諸国から支持の声が上からなかつたが、近くに友人のいないことを世界に印象付けた。

忠告の徹底前さぬ  
少子対策と公明の主張をえ

日本のアジアからの孤立を認めた公明新聞10日付「主張」

## 小泉「改革」

- ・介護保険のホテルコスト
- ・年金保険料引き上げなど

- ・配偶者特別控除廃止
- ・健康保険本人負担引き上げ
- ・雇用保険料引き上げなど

# たしかかな野党 比例は共産党へ

## いま この時に

「丙種合格」といいます。

### 青酸カリのびん

戦争の恐怖といえは、キーンという爆弾の落下音と、シーンと静まり返った防空壕の中の静寂が浮かびます。

四五年、東京への空襲が激しくなりました。敵を攻撃して死ぬならともかく、殺されたくありませんでした。敏速な行動をしなければ、真っ先に葬られてしま

私には脳性まひの言語障害と四肢まひがあります。手はわずかに指先の自由がきき、物をつかめる程度で、ひじと肩は動かせません。

戦争に行くことが、人間の第一条件のように信じられていた時代、その条件を満たせない者は、非国民どころか、人間でないもののように小さくなっていました。私たち障害者は外出もできず、自宅に潜んでいました。

それでも兵士の数が不足

日本障害者協議会  
顧問・俳人  
花田 春兆さん



## 私たちは戦争時代「人間」でなかった

います。防空壕に一人取り残されたあと、急に爆音が頭上を揺るがし、ひっそりと音が絶えてしまったときの心細さは、言いがかりがありません。

当時、ただ一つの肢体不自由児の学校であった私の母校・東京市立光明国民学校（現都立光明養護学校）にも空襲が迫っていました。その後、長野県に集団疎開しましたが、疎開先に軍から渡された青酸カリの大きなびんがあったとき、戦火の中、足手まといになるだけでみずから死ねない存在なので、死なせる準備をしたのでしよう。

戦後六十年の節目に「戦後の総括と超克」を名目にした改進黨動が、いよいよ勢力を得ています。いったん戻り始めれば、止めるのは容易なことではありません。六十年前で止まってくればまだ救われるのですが、その十年も前までいきそうな勢いです。今度の総選挙で歯止めを掛けなければなりません。

武力による紛争解決である戦争は、障害者に物理的、心理的な極限状態をもたらします。戦争こそ障害者を大量発生させる最大の要因です。

### 戦争が障害生む

自由を奪われ、自分のやりたいことがやれなくなる、いまある生活が全部なくなり、奪われてしまうのが戦争です。敵と刃（やいば）を交える最前線だけの問題ではありません。国民みんなの問題です。私も「障害者・患者九条の会」のよびかけ人の一人として、力を尽くします。

はなだ・しゅんちよう 1955年大阪生まれ。79歳。日本障害者協議会顧問。俳人。身障者同人誌『しののめ』を創刊、編集にあたる。俳人協会全国大会賞などを受賞。障害者「自立支援」法案で応益負担導入反対を主張。

（聞き手 川田博子）

